

# 乙女高原が好き！0903号

## ボランティアによる乙女高原の草刈りも、おかげさまで10周年 今年も乙女高原でいい汗かきましょう

戦後50年以上にわたって、乙女高原では、「スキー場の管理」として毎秋、草刈りがおこなわれてきました。草刈りをしないと、雪の上に枯れ草が飛び出てしまい、スキー場としてうまく機能しなかったのです。この草刈りによって草原生態系が保たれてきました。ところが、2000年春、乙女高原を今後はスキー場として使用しないことが決められてしまいました。スキー場として使わないということは、もう草刈りもしないということです。

このまま放置すれば、いずれ乙女高原の草原は森に飲み込まれてしまうでしょう。それも「自然」です。ですが、草刈りを続ければ、「森」も「草原」も保全できる。生物多様性が高いまま保たれる。なにより、未来の子どもたちに「草原」という選択肢も残せてやれる…そんな思いで、ボランティアを募集しての草刈りイベントを始めました。五里霧中、無我夢中でした。おかげさまで「参加費100円をいただいて、草を刈っていただく(2006年以降は参加費無料)」というイベントに毎年200人もの方々が集い、和気あいあいと作業を楽しんでいただけるようになりました。これまでの参加者はのべ1934人です。

毎年毎年、このイベントを少しでもいいものにしようと、市・県の担当の方と試行錯誤を続けています。

「ぶなじいさんの根元に落ち葉のふとんをかけましょう」というキッズプログラムを始めたのは、ぶなじいさんの根元の状態が悪くなかったことと、子どもたちが大人に混ざって刃物を使う作業をすることへの心配からです。2003年から3年間続けました。じいさんの根元が落ち葉でいっぱいになったことと、せっかく「草刈り」イベントに参加しているのだから、子どもたちにも草刈りを体験させたいという思いが強くなったことから、2006年からは、子どもたち専用の場所を指定して、子どもたちにも草刈りを体験してもらうことになりました。

2005年の草刈りは市町村合併後はじめての草刈りでした。合併後も草刈りを続けられることになり、ほんとうにホッとしています。

これも草刈りの楽しみの一つなのですが、毎回、草刈り作業後に参加自由の茶話会をグローンロッジで行っています。お茶を飲みながら自由に意見交換をしています。2007年の茶話会で、乙女高原ファンクラブと同じように草原の保全活動をしている韮崎市の甘利山倶楽部の方々から「ビニールシートに草を載せて運ぶと楽だよ」というアイデアをいただきました。「それはいい」と、翌年から実施しています。子どもたちも、これにおおはしゃぎ。おみこしみたいにかげ声をかけながら元気に運んだり、交代でシートに乗ったり。

さて、乙女の草刈りで10年間、ずっと続けているのが、作業終了後の集合写真。200人が草原に全員集合している様子は壮観です。また、ちらしのデザインもずっと変わっていません。変えるのは面倒…ということではなく、同じことを毎年続けることが大事というメッセージを伝えているつもりです。なお、ちらしの表紙写真ですが、2004年からは、前年の草刈りの集合写真を使うようにしています。そして、もう一つ、乙女の草刈り後の楽しみといえば、豚汁です。野菜も、本人曰く「手前味噌」もファンクラブ世話人の竹居さんの自家製です。豚肉とゴボウは会員の藤巻さんの差し入れです。プロパンガスは奥山石油さんが提供してくださっています。10年間、毎年ですよ。ありがたいことだと思います。

そして、もう一つ、10年間続いていることがあります。このイベントは毎年11月23日に行っているのですが、雨に降られたことがないのです。

今年はいよいよ10回目。節目の年です。ぜひ、ご友人やご家族とご参加ください。「ぶなじいさんに落ち葉のふとんをかける」キッズ・プログラムも復活させる予定です。

第10回 乙女高原の草原を守る！

11月23日(月・祝)少雨決行

午前9:30 午後2:00

乙女高原グリーンロッジ集合

持ち物 弁当、飲物、軍手、雨具、マイおわん、マイ箸、お持ちの方は鎌・鉋・刈り払い機などの道具。

参加費 無料(保険には主催者で加入)

申込み(なるべく11月19日まで)等は山梨市 観光課 0553-22-1111(代)

## 復活!! ブナじいさんに落ち葉のふとんをかけましょう

乙女高原の「裏山」にブナの大木があり、ブナじいさんと呼ばれています。このあたりのブナは昭和30年代に伐採されているのですが、じいさんはそれを免れています。免れた理由を考えるのも面白いのですが、それはさておき、じいさんは稜線上の谷部に立っています。そんな場所は土砂が最も崩れ落ちやすいところ。じいさんがいなかったら、ここはもっと崩れて低くなっていたと思います。

そんな悪条件の中、根が地表にむき出しになりながらも森を守ってきたじいさんの根元に枯れ枝で柵を作り、その中に落ち葉の「ふとん」をかけてやろうというのが、このプログラムです。ただし、森の中に積もった落ち葉を運んでしまったら森の他の木に迷惑になります。落ち葉は森の生き物たちによってリサイクルされ、やがては木の栄養～腐葉土～になるからです。ですから、林道のアスファルトの上に積もった落ち葉を集めて、じいさんの根元まで運ぶようにしています。

草刈りボランティアにはぜひ、お子さんと一緒にご参加ください。大人たちが草刈りをしている間、子どもたちをお預かりし、このプログラムを実施しています。きっと夕飯どきに親子の会話がはずみますよ。



写真上: 林道に積もった落ち葉を集めて、大きな袋に入れます。

写真中: 落ち葉を入れた袋を背負って、坂を登ります。なんだか、サンタクロースの袋みたいに見えます。一足早いけど、ブナじいさんへのクリスマス・プレゼント?!

写真下: あらかじめ大人が作っておいた柵の中に落ち葉を入れ、その上に、風で落ち葉が舞わないように、枯れ枝をたくさん乗せました。

## 乙女高原案内人キャンプ

8月22日(土)～23日(日)

「乙女高原グリーンロッジに泊って交流を深めながら自然三昧, 星空三昧, ボランティア活動三昧の時間を過ごしましょう」という, 乙女高原案内人としては3年ぶりのキャンプです。参加者は案内人を中心に22人。とても充実したキャンプでした。中心になって企画してくださった三枝さんはじめスタッフの皆さん, ほんとうにご苦労様でした。以下, プログラムの簡単な紹介です。

### その1 遊歩道の杭づくり

乙女湖に流れ込んでしまった流木の中から使いそうなものをピックアップし, ロッジまで軽トラで運びました。チェーンソーで適度な長さに切り, 根元部分を鋭く削り, 皮を鉋や鎌で剥きました。作った杭は, 炊事場で焦がして, 腐りにくいようにしました。40本の杭ができました。

### その2 食事づくり

三枝さんを中心とした女性陣が手はずを整え, 男性陣が協力。じっくり煮込んだ, おいしいカレーができました。たくさんの差し入れがありました。おいしくいただきました。

### その3 交流会

司会進行を米山さん, 米村さんの「こめこめコンビ」のお二人が引き受けてくださり, 楽しい宴となりました。アルコールの差し入れも多く, 飲みきれないほどでした。

### その4 ライトトラップ見学

今年から乙女高原で昆虫相調査をしていただいている槐さんがキャンプに参加。夜は, ガス発電機で電気を起こし, いろいろなタイプ(波長)のライトを点灯して虫を集めるライトトラップを実施してくださいました。みんなで, どんな虫が集まるかを観察させていただきました。

### その5 星空観察

ライトトラップは下の駐車場で行ったのですが, そこに天体観測に来られている方が3人。望遠鏡をちょっとだけ覗かせていただきました。

もちろん, 肉眼でもたくさんの星を見ることができました。雲がかかることも多かったのですが, この日は新月の翌日ということもあり, なおさら, 星がよく見えました。

### その6 シカ食害の視察

翌日, 朝食とその片付けを終えたところで, 一部の方には案内活動のために残っていただき, 残ったみんなでハイキングに行きました。

クリスタルラインを歩いて甲府市に入ったところで, 林道を外れ, 倉沢山への小道を進みました。笹原の中に太いミズナラやウラジロモミが点々とあるような景観なのですが, そのミズナラやウラジロモミが痛々しいほどにシカの食害を受けています。その様子を見てもらいました。

今年, 参加できなかった方も次回はぜひご参加ください。また, 今回, 小学生が一人だけ参加してくれましたが, 「ぼくの他にも子どもの参加が欲しかったナー」とボヤいていました。お子さんの参加もおおいに歓迎します。では, 参加された案内人の宮川さんとその息子さん悟くん(小5)のレポートです。

楽しかった乙女高原

宮川 悟(小5)

8月22日から23日の1泊2日で乙女高原においてキャンプを行ないました。

僕が一番印象に残った事は, カメムシ研究会です。実は何気ない日常から始まったのです。梨や桃, すももを運ぶのを手伝っていて, やかんを見たら緑色のカメムシがいました。それから, 果物を切っている人達と見ていました。ロビーにいた虫に詳しい人と呼んできました。臭いを嗅いでみると, 臭くありませんでした。詳しく



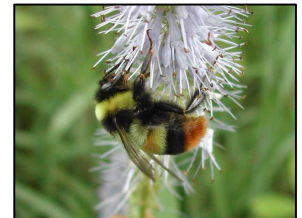
い人に、聞いてみると『危険じゃないと臭くない』と教えてもらいました。カメムシは、自分を狙う敵がいると、においをだすらしいです。そのうちもう一人きてにぎやかになりました。手の甲にのせてる人もいました。僕ものせました。そんなカメムシをおもしろくなって辞典で調べてみました。別名くさがめ、ヘッピリムシ、へこきむしと書いてあり、笑ってしまいました。体長は、2~40mmです。種類は、90種類です。このように珍しい昆虫に出会えてとても勉強になりました。これからは乙女高原にいる動植物について学びたいです。ありがとうございました。

案内人としての自然観察についての知識の共有ができた 宮川 修

先日22日~23日に行なわれた案内人キャンプでは、大変お世話になりました。子どもも感想文にあるようにとても感動していました。子どもがたったひとりの参加でどうなることかと心配していましたが、参加者の皆さんの暖かい心遣いを感謝しております。参加者も総勢20名、ロッジも他の団体の使用もなく、貸し切りでとても楽しく過ごさせて頂きました。参加者の皆さんで役割り分担で、各々がお互い協力し合い、また、三枝さんを中心に夕食から朝食、昼食ととてもおいしい食事とお酒良かったです。

えんじゅさんの夜の昆虫観察、また星空の観測では雲が多めながら星をながめ、天体望遠鏡での観測とても感激しました。親睦会では、米村さん、米山さんの両コンビの司会でとても盛り上がったこと印象的です。2日目の植原先生の自然観察会では、倉沢山の下まで歩いていき、今、あちこちで鹿による食害がひどいことで乙女の鹿による被害状況を実際目で確かめられ、また、ゴミの不法投棄の現場を見たり、案内人としての自然観察についての知識の共有ができたことはとても有意義な2日間でした。

参加されたみなさんほんとうにご苦労様でした。来年ももっと多くの方の参加で盛り上げていけたらいいなと思いました。私自身、協力しできることは積極的にやってゆきますのでよろしく願います。以上で私の感想とさせていただきます。有難うございました。



## マルハナバチ レポート 2009

今年も年3回のマルハナバチ調査(うち1回は「マルハナバチ調べ隊」として)を行いました。1回目(6/28)のラインセンサスが1頭だけだったことは、前号で報告しました。

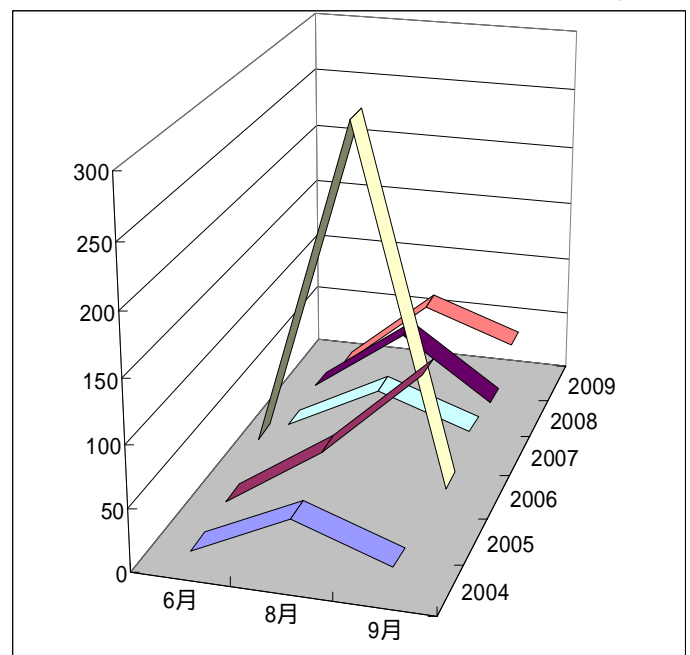
2回目(8/9)の「調べ隊」にはスタッフも含め20名を越える参加者がありました。マルハナバチがいくつくれるか内心ドキドキしながら調査に出発しましたが、ノハラアザミにとらちゃんが見つけ、ほんとうにホッとしました。その後も順調にマルハナバチが見つかり、合計63頭でした。

3回目(9/13)の調査でもラインセンサス調査でマルハナバチはまあ順調に見つかり、計37頭でした。

定期的に行っている6・8・9月のラインセンサス調査でのマルハナバチ総数の6年間のグラフが以下です。2005年のみ右肩上がりのグラフになっていますが、他の年は8月にピークのある山型になっていること、2006年の8月が突出しています(295頭)が、他の年はまあまあ同数であること...という傾向が見て取れます。マルハナバチの種類やマルハナバチが訪れている花、さらには定期的な3回以外に行っている調査結果も加味して分析すると、いろいろなことが「見えて」きそうな気がするのですが、残念ながら、それをやっている時間がありません。すみません。

ところで、9/5にタムラソウに来ている真っ黒い、大きなマルハナバチを発見。後ろ脚の花粉バスケットに花粉も付けていました。コマルハナバチだったら初夏には巣を解散しているはずですが、ということは乙女では新種のクロマルハナバチ? 国武さんに見ていただいたところ、コマルの働き蜂だったそうです。そういえば一昨年の秋にもコマルが見つかり騒動になりました。それにしても、こんな時期に? 花粉を付けていたということは、子育て中? 働き蜂にしては女王クラスの大きさだったけど? そもそも、コマル女王は夏から冬眠しているの? 謎は深まるばかりです。

(植原 記)



## 乙女高原案内人 夏の自主活動

7月18日(土)～8月30日(日)

夏の間、乙女高原案内人の皆さんが乙女高原を訪れた人を無償で案内するという自主活動は今年で5年目です。今年も7月下旬から8月末までの週末を中心に17日間行ってくださいました。乙女高原案内人は、コトバを発することのできない乙女高原の自然に代わって、乙女高原の自然を人に伝える「語り部」です。また、乙女高原の自然を次の世代に確実に譲り渡すためには、乙女高原を訪れた方々に乙女高原の自然の魅力だけでなく、その成り立ちや現状を知っていただく必要がありますが、それには、実際に乙女高原で活動している人と一緒に歩いたり、話をしてもらうのが一番です。夏の自主活動は、まさにそんな活動です。数多くの案内人が、それこそ手弁当で、遠くは県外からも来てくださって活動しています。



さて、現場で実際に活動すると、さまざまな成果や課題が見えてきます。依田さんからいただいたお便りの中にもそれがありました。紹介させていただきます。

### 【案内人の自主活動 2005～2008】

年	2005	2006	2007	2008	2009
活動日数	16	17	16	17	20
参加案内人のべ数	91	84	101	117	79
案内した方の数	408	524	457	348	384

夏季の団体案内も含まれます。人数は暫定値で、実際はもっと多いはずです。

「お時間があるようでしたら、ご案内しましょうか？」親子連れに声をかけ、地図の前で「どんなコースを歩きましょうか？」と相談している案内人の米村さん(左端)

### 8月15日の案内人活動 依田 昇

乙女に来た案内人は7名でした。お盆で帰郷している人なのか、多くの方が高原を訪れてくれました。100名近く、車も30～40台は来たと思います。今年一番の活躍でした。

男性の方、歌の影響がワレモコウが一番人気でした。初めて見る人もいました。日本ミツバチも人気。昨日はスズメバチに襲われましたが、見事撃退したとの報告。シロバナヒメトラノオは姿見せず、残念でした。この日アサギマダラが、ヒヨドリバナに数十頭集まっていた。マーキングされたのもいたようですが見失ったそうです。マルちゃんもたくさん飛んでいました。

多くの人の感想として「ススキ原になってしまいそう」「遊歩道近くのススキ刈ってほしい。花が見えない」というのがありました。ファンクラブまた案内人としての許容範囲は守りますが、遠方から訪れる人の気持ちも大切にしたいと思います。関係部署では現状を認識しているのでしょうか？

訪れた皆さん、案内人の活動喜んでくれています。「また来年どうなっているか見に来ます」といって帰途につかれました。以上。

## 乙女高原案内人、小学校の自然教室にも協力

山梨市牧丘地区にある3つの小学校全てから乙女高原の案内のリクエストをいただきました。つまり、牧丘に住んでいるすべての小学生に乙女高原の案内をするチャンスが与えられたということです。乙女高原の自然を次の世代に譲り渡すことを活動目的にしているファンクラブにとって、これはとても重要なことです。さて、そのうち、牧丘第一小学校の案内の様子を加藤さんがまとめてくださいました。これも紹介させていただきます。

### 牧丘第一小学校での案内人活動 加藤 信子

9月11日に行いました自然教室の結果を、お忙しい竹居さん(注:案内人の学校対応担当が竹居さんです。

竹居さんにはお忙しい中、電話や実際に小学校に足を運んだりして、打ち合わせをしていただきました)に代わって、私から報告させていただきます。

案内人をかけてくださったのは内藤さん、依田さんご夫妻、米村さん、竹居子さん、加藤の6人です。当日になってどなたかお手伝いに来られないかな?と思いながらメールをしていたのですが、残念ながら他の方はお忙しいようで増員にはなりません。メール環境が無い人も何人かいらっしゃるの、連絡方法も見直した方が良くもありません。と言うのも、依田さんが米村さんに電話をして下さり、参加が実現しました。これからも協力しますと力強いお言葉を頂きました。

さて、自然教室の方ですが、遠方の方がいたにも拘らず、8時30分にはみな集合しました。依田さんは4時起きですから大変でした。「自然観察クイズ」カード15枚を、手分けして該当する場所に吊るしました。そしてタイムスケジュールと各担当者を決めました。

さて、バスが到着して生徒達とご対面(先生一人とコーディネーターの元校長先生が、付き添い)  
・相互に自己紹介 ・乙女高原の歴史(竹居さん) ・ブナ爺さんのこと(依田さん) ・五感体操(簡単に加藤が) ・注意事項(米村さん) ・ストレッチ(内藤さん他)と続き、6班でスタートしました。

林のコースを3班が上り、草原のコースを残り3班がそれぞれ少し時間差をつくって出発しました。5人の生徒に案内人が1人ですから、とても贅沢なそしてとても近しい関係で進行することが出来たと思います。生徒も事前勉強をしていたり、マルハナバチには特に興味をもっていて(5年生の国語の教科書に出てくるので)トラちゃんはいなかったけれど、ミーちゃんが沢山いて、大人の人と同じような会話が出来ました。メモを取るのに花の絵を描きながらする子供もいました。各グループが時間通りに戻ってきて、

・質問コーナー(特に出なかった) ・6班の各班長さんが、一人ずつ感想を発表  
最後に、例のロープで輪を作り、全員が丁度入ったところで種明かしをして、もう一度入り直して、写真に収め、全員で記念撮影をして終わりました。生徒達は学校に帰って、給食をとるので、バスで帰るのを案内人全員で手を振って見送りました。各班でまとめを新聞形式にするそうで、出来上がりが楽しみです。

以上簡単にまとめましたが、とてもとても楽しい一日になりました。6人の皆様本当にお疲れ様でした。山梨市の他の小学校からも、頼まれるようになるかもしれません。案内人の皆様全員、スタンバイ出来るように準備をして下さいね。乙女高原は皆さんが来るのを待っていますよ。

## 報告!! 乙女高原と乙女高原ファンクラブが 関東・水と緑のネットワーク百選に選ばれました

「これからの関東地域における、身近な地域にある風景や自然、そしてこれらと人とのかかわり・つながりを考え、その意義を広く伝えることを目指し、生物多様性の保全・再生に資する取り組みを支援し、これからの地域のあり方を考えていくとともに、環境学習の場づくりなどを進めていく、…」という趣旨に共感し、市長さんをはじめ山梨市のお勧めにより、表記に応募したところ、乙女高原と乙女高原ファンクラブが選ばれました。主催は、(社)関東建設弘済会と(財)日本生態系協会です。さいたま市で行われた選定証授与式に、土橋さん夫妻に出席していただき、式に臨んだご主人の様子を奥様がレポートしてくださいました。お二人ともご苦労様でした。ありがとうございました。

選定証授与式に行ってきました レポート by 土橋倫子

当日は、応募した70団体から今回選定された24団体の紹介や、桜美林大学の三島先生のお話がとても印象的でした。主人も簡潔に大きな声で乙女高原ファンクラブの説明をしてくれ、ホッと一安心です。

内容は、1.開会式 2.主催者挨拶 - (社)関東建設弘済会理事長の奥野晴彦氏と(財)日本生態系協会会長の池谷奉文氏 3.選定証授与 - 土橋博彦(レポート者の夫)が受け取りました!  
4.講評 - 桜美林大学 三島先生のお話が印象的だったので、詳しくレポートします。

講評「もう一度自然を考えよう」 桜美林大学 名誉教授 三島次郎氏

1954年にアメリカ・ヨセミテで起きた山火事を消防隊は消すことはなかった。なぜか?

- 1) 火事も自然の一つだから。
- 2) 火事のおかげで草原になる、草原に虫・動物たちが集まり、山は豊かになる

3) 炭の層 草原 森への遷移とつながり、山が生まれ変わる要因になる。

ツバメが町から姿を消した。なぜか？ 環境の変化か、カラスのせいかな…。いや違う。そこで、色々考えた…。発見！ ツバメは何を食べているのか 虫を食べている。虫を街の呼び戻そう！ みんなが嫌っている虫とツバメを切り離すことはできない。嫌われている虫たちと人間がどう付き合うのか？ でも、ツバメを守るためだけに尽力することは正しいのか？

1) 動植物保護は自然保護ではない。2) 一個体を保護することで別の自然が破壊されることもある例・巣箱を設置する 周りを見てほしい。聞く耳を持ってほしい。巣箱を使う鳥だけを守るのか？  
どぶ = 汚い。でも汚いといわずに、そこで生きる虫たちに耳を傾けてほしい。ユスリカやイトミミズが生活するどぶは、汚染生態系の担い手。強力な分解者です！

樹木の働き 1) 直径10cmの樹はクーラー6台分の冷却効果がある  
2) 年間自動車600km分の二酸化炭素を吸収 3) 人に見えるものの評価によって、樹を植えない・切らない。「目障り」「虫が来るから」「落ち葉の掃除が大変だから」 4) 樹齢30年の一本の気を失ったとき、何億円払っても30年待たなければその一本の樹は生えてこない。 5) 森は自分で育つわけではない 森林作業は誰がするべき？ 原生林のアマゾン・白神山地は誰が手入れしているの？ 答え) 森が自分でしている。人が伐採のために使う森は、杉・ヒノキが多いため、人の手を入れる必要がある。  
道路のコンクリートの間から雑草が生えている…1) 虫の集まる場所になる。  
2) 雑草を抜くことは、確かに見た目はきれいだが、窓辺に虫の音も聞こえない…それは自然破壊の第一歩

街路樹の落ち葉は誰のもの？ 持ち主に返してあげましょう！  
そう、素晴らしい自然のために「もう一度自然について考えましょう」  
ご意見ご感想は、jirom@mtg.biglobe.ne.jpまで



乙女高原のプレゼンを行う土橋さん

5. 記念撮影の後、6. 意見交換会(各団体の活動内容発表)がありました。なお、選定された24の団体(場所)は以下の通りです。

- 1) アサヒビール(アサヒビオガーデン)
- 2) 我孫子市(谷津ミュージアム)
- 3) 市野川水系の会イン滑川町(市野川 羽平橋～両家橋間・周辺農地)
- 4) 市原市立有秋小学校(ピオトープ)
- 5) 井の頭外来生物問題協議会(井の頭公園池)
- 6) NPO法人NPOさとやま(市野谷の森)
- 7) 乙女高原ファンクラブ(乙女高原)
- 8) 柏の宮公園自然の会(杉並区柏の宮公園)
- 9) NPO法人観音山丘陵調査(荒久沢川)
- 10) NPO法人徳野鳥観察舎友の会(千葉県徳野鳥獣保護区)
- 11) 桐生市(桐生自然観察の森)
- 12) グループうえっと(はきだし沼)
- 13) けやの森学園(日高市大谷沢の林)
- 14) 猿ヶ京ホテルの会(猿ヶ京温泉西川緑地親水公園周辺)
- 15) JFEエンジニアリング(株)鶴見事業所(JFE とんぼみち)
- 16) NPO法人穴塚の自然と歴史の会(穴塚大池)
- 17) NPO法人秩父の環境を考える会(ちちぶ棚田・昆虫の森)
- 18) 千葉県立茂原樟陽高校(農業土木部)(一宮町御堂谷の谷津田周辺)
- 19) 長池里山クラブ(八王子市長池公園 里山体験ゾーン)
- 20) 秦野市くずはの広場(葛葉緑地)
- 21) 馬入水辺の楽校の会(馬入水辺の楽校区城・相模川下流)
- 22) ふるさと上谷沼・地域創造塾(上谷沼調節池周辺)
- 23) 別府沼を考える会(別府沼公園水生植物保護区域)
- 24) 真岡自然観察会(鬼怒水辺観察緑地)



今回、選定された団体の皆さんで記念写真。土橋さんは中段右端。中央ノーネクタイの紳士が三島先生。



なお、いただいた支援金によって、乙女高原で急激に増加しているシカによる食害対策としての実験用柵を購入し、設置することになっています。設置は来年五月の予定です。ご協力をよろしくお願い致します。

左写真は、一昨年からシカ柵を設置している櫛形山・裸山の様子です。柵の中と外は、まさに天国と地獄といった様相でした。柵外で、最後まで生き延びた植物は、意外なことにコウリンカだったそうです。写真で、口ゼット葉がよく目立っているのがコウリンカです。

# 乙女高原ファンクラブの事務局だよ

## 新着情報

200 人も乙女高原ファンが集まる「草刈りボランティア」。特に今年はキッズ班は別行動でブナじいさんに向かいますから、多くのスタッフが必要になります。スタッフ(駐車場係, 草刈り班の案内係, ロープ回収係など)への立候補, ぜひぜひよろしくお願ひします。

(財)日本自然保護協会主催の「生物多様性の道プロジェクト」に応募しました。家のまわりや地域で、いつまでも大切に残していきたい自然を「生物多様性の道」として登録し、ずっと見守っていこうという活動です。さまざまな参加型の活動を企画し、たくさんの人たちと一緒に、日本中の生物多様性の保全に取り組んでいくと同時に、2010 年に名古屋で開催される生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)の機会を最大限生かし、プロジェクトの成果を用いて生物多様性保全のための政策提言をしていくそうです。



乙女高原ファンクラブ

### 乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A 4 判 186 ページ)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1 冊 1 0 0 0 円, 送料は一冊につき 8 0 円。欲しい方は郵便振込で一冊につき 1 0 8 0 円分を送金してください。

マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング』

(A 3 判両面カラー)マルハナバチの生態, ファンクラブで行っている調査, 乙女高原のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。欲しい方は事務局までご連絡ください。



春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A 3 判両面カラー)乙女高原フィールドガイドの第 1 号。春から秋にかけて咲く 47 種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈の表示や草花を一言で表したコメントが「分かりやすい」と評判です。今年リニューアルしました。欲しい方は事務局までご連絡ください。



## 乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会员とサポーター会員の 2 種類があります。会報(ニュースレター)は年 4 回発行予定です。年 1 回は全会員に送っていますが、今号も含め、あとの 3 号は普通会员にしか送りません。乙女高原での活動を多くの方に知ってもらいたいので、できるだけ普通会员での入会をお勧めください。会員が増えることで、乙女高原を守るファンクラブの発言力も強くなります。

### 乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」と、入会のご意志を事務局まで届けてくだされば、いつでも、だれでも会員になれます。ファックス, メール, 手紙が確実です。
- ・入会金も年会費もありません。
- ・普通会员には年 4 回, サポーター会員には年 1 回, ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可), サポーター会員にはありません。
- ・そして・・・, 乙女高原を守る力が 1 人分, 大きくなります。

### 乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3  
TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@kcnet.ne.jp  
会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。  
WEB <http://www.kcnet.ne.jp/~otomefc/>

郵便振込 (番号) 0 2 2 0 - 8 - 7 1 0 9 3 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ